

各事例について話を聞くだけではなく、参加される方それぞれの地域に合わせた事業の立案まで行う、クレアのローカライズ研修です。

令和2年度
オンライン

ローカライズ 研修

外国につながる子どもたち
～切れ目のない支援をめざして～

第1部：10月23日(金) 13:30-17:00

第2部：11月06日(金) 13:30-15:30

総括ファシリテーター

藤井 美香 氏 (公益財団法人 横浜市国際交流協会)

事例Ⅰ 【乳幼児期・母子保健への取組】

外国人住民子育て支援のための仕組みづくり

福田 久美子 氏 (公益財団法人 かながわ国際交流財団)

外国人住民の妊娠期から小学校入学までを支えるために、支援者と外国人住民が必要な情報をわかりやすくまとめ、一緒に確認できる仕組み(チャート、ウェブサイト)を作成した。また、母子保健分野などで多文化対応に慣れていない従事者が、外国人住民と向き合うときのヒントを、ガイドブックとしてまとめた。それを基に自治体等とモデル事業を積み重ね、その成果を発信している。

事例Ⅱ【プレスクール・義務教育期の居場所づくり・学習支援】

学齢に応じた包括的な子どもの支援教室の運営事業

各務 眞弓 氏 (特定非営利活動法人 可児市国際交流協会)

就学前の準備指導教室から小中学生の日本語や、学習の基礎、母語教室、高校進学支援教室など公教育ではすぐに対応が難しい支援教室の設置や運営についてや行政、学校との連携について

事例Ⅲ【若者(中高生以上)の居場所づくり・自立支援】

地域でつなぐ、若者の世代間支援 ～Rainbowスペース～

木村 博之 氏 (公益財団法人 横浜市国際交流協会)

「中区・外国人中学生学習支援教室」(主催：なか国際交流ラウンジ)の卒業生が集う居場所「Rainbowスペース」。複文化、複言語を携えた彼らの活動は「自己表現」「自助活動」「社会貢献」と多岐にわたる。来日以来の自らの気持ちを表現した自主製作映画「向陽而生～私らしく生きること」が話題になる。

第1部：10月23日(金) 13:30-17:00

ローカライズのポイント・各事例の概要説明

ローカライズする際の考え方と、3つの事例の概要を学ぶ
各テーマごとにファシリテーター（事業担当者）からグッドプラクティスである秘訣・ポイントを聞く

中間課題

各事例の地域での実践を考える

事前課題及び第1部での学びを基に、各自グッドプラクティスのポイントを地域で応用した事業を立案する。

第2部：11月06日(金) 13:30-15:30

各テーマごとで共有・検証

中間課題で作成した各参加者の事業立案シートについて、共有し、意見交換を行い、ローカライズの実践をより具体的にイメージする。

定員：24名（各事例8名）

対象：自治体、地域国際化協会、市区町村国際交流協会の職員

開催方法：Zoom オンライン会議システム



お申込方法

Googleフォームにより申し込みください

(<https://forms.gle/gHXCADYBRmTyPvzW8>)

または、申込書を tabunka@clair.or.jp 宛お送りください

問い合わせ先

(一財) 自治体国際化協会 多文化共生部多文化共生課

tabunka@clair.or.jp / TEL: 03-5213-1725

担当：ローラ・石川



一般財団法人

自治体国際化協会